

BCAO関西地域勉強会 平成31年4月度(第138回)勉強会 議事録

日時 2019年4月17日(水) 19:00~20:30

場所 大阪中央公会堂 第1会議室

司会者 藤村 書記 野原

出席者 藤村、伊藤(高)、徳永、梅田、大館、飯田、別役、鷺山、萩原、徳山、中村、三橋、久保田、
寅屋敷、吉賀、野原(計16名)

内容:

テーマ: BCPコンサル事例紹介 ※守秘義務により詳細は非開示

講師: 吉賀 豪氏(竹中工務店)

質疑応答

- ・重要な業務について精緻な分析を実施。
コンサルのヒアリングにより、大半の元資料を作成。
- ・BCPに取り組む重要業務の許容停止期間を1週間として重要業務を選定
(質問) なぜ1週間に決めたのか? 1週間で会社が倒産するのか?
(回答) 倒産するわけではないが目安を1週間以上停止する業務とした。
- ・BCPの維持継続について
(質問) BIAも見直しの頻度は?
(回答) 1年に1回見直し
(質問) これだけの分析をして、見直し等、維持継続ができるのか。維持継続の
負荷が大きいのではないか。
(回答) 作成時は大変であったが、見直しの際は差分のみ見直せばよい。
そのためそれほど負荷はないと考える。また、コンサルが抜けた後も維持継続をできるよう、
BCP策定のノウハウが、企業側に残るようBCP作成の考え方・ノウハウはプロジェクト開始時
から移転することを心がけて進めた。
(質問)
- ・BCP構築の体制について
(質問) どのような体制で企業側はBCP策定に臨んだのか
(回答) 企業側BCP事務局は、8名で各部門に担当者を配置。担当者は間接部門のメンバーだけでなく、
製造現場のBCP策定の際は技術者も参加
- ・BCPの発動について
(質問) BCPの発動はだれが行うのか。
(回答) 「BCPの発動」という言葉は使用していないが、危機レベルによって、BCP発動者が決まる。

- ・ BCP の訓練について
 - (質問) 訓練はどのような単位で実施したのか
 - (回答) 訓練は災害対策本部のみ、教育は全社員が参加。コンサルが1年がかりで実施
- ・ BCP 策定時の対応人員について
 - (質問) BCP 策定時に人員不足は考慮されているか
 - (回答) 考慮していない
- ・ 想定リスクについて
 - (質問) リスクを想定せずに BCP を策定しているといったが風評被害等はどのような対応を行っているのか
 - (回答) 経営資源にダメージを受けないものは、BCP 対象リスクから除外。
- ・ BIA (事業影響度分析) について
 - (質問) リスクの程度により、影響度合いが変わるが、そのような想定で BIA を行ったのか
 - (回答) リスクを前提に BIA は行っていない。重要業務が止まったという結果をもとに影響度を分析。結果事象からの対策検討。
当然のことながら対策立案の際は、リスクによる被害想定をもとに対策を検討する。

以 上